



総合型地域スポーツクラブ 公式メールマガジン

このメールマガジンはスポーツ振興くじ助成金を受けて配信しています。

スポーツくじについてはこちらから

[スポーツくじ理念広報サイト「GROWING」]

<https://www.toto-growing.com/>



特別企画★スポーツを通じた介護予防・健康増進に取り組むクラブ

特定非営利活動法人**樫原健康スポーツクラブKKSC**(奈良県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R8/MM187_kksc.PDF

特別企画★都道府県スポーツ協会または都道府県連絡協議会で 実施している総合型クラブ支援に関する取り組み

公益財団法人**岩手県スポーツ協会・岩手県総合型地域
スポーツクラブ連絡協議会**(岩手県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R8/MM187_iwate.PDF

連載★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ

NPO法人**かわまたスポーツクラブ**(福島県)

http://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/kurabuikusei/MailMagazine/R8/MM187_kawamata.PDF

助成金情報 ▶▶▶ [詳細](#)

お知らせ ▶▶▶ [詳細](#)

バックナンバー ▶▶▶ [詳細](#)

全体版 ▶▶▶ [詳細](#)



JSPPO
Japan Sport Association

特別企画

★スポーツを通じた介護予防・健康増進に取り組むクラブ★

特定非営利活動法人 橿原健康スポーツクラブKKSC 奈良県橿原市

総合型地域スポーツクラブの活動は、地域住民へスポーツ活動を促す契機となり、地域住民の健康増進および体力づくりに大きく寄与することができます。また、総合型クラブが地域に根ざし、必要不可欠な団体となるためにも、健康・医療など地域の諸課題を解決する公益的な事業を積極的に行うことが必要となってきました。

そこで今回は、高齢者向けのプログラム等の実施を通して健康づくりに取り組むクラブを紹介します。

1

シニア世代が元気に躍動！ 奈良県橿原市で活動する総合型クラブ

特定非営利活動法人橿原健康スポーツクラブKKSC(以下、本クラブ)は、奈良県橿原市を拠点に活動する総合型地域スポーツクラブです。平成20(2008)年3月に設立され、平成24(2012)年にNPO法人格を取得しました。「健康な生活は自分自身で楽しみながら創っていこう」を合言葉に、奈良県立橿原公苑の第一体育館・第二体育館などを主な活動場所として展開しています。

令和8(2026)年3月現在、306名(男性39名、女性267名)の会員が在籍しています。年齢層をみると、約半数(49%)を70代が占め、60代(24%)と合わせてシニア層が中心となって元気に活動しているのが大きな特徴です。

活動種目は通年で展開されており、「健康卓球」「健康太極拳」「健康トレーニング」といったプログラムを中心に、「ハワイアンフラ」「小学生フィットネス」「ノルディックウォーキング」「ヨガ」など多彩な教室を用意しています。また、外ヨガ体験や救命救急講習会、こどもスプリングフィットネスなどのイベントも積極的に開催し、地域住民の交流と健康づくりを支えています。

保険	スポーツ保険加入必須 2,000円(64歳以下) 1,200円(65歳以上) 小学生800円
年会費	大人 3,000円 ※下半期(10月～翌年3月)入会につき1,500円 小学生 なし
参加費	大人 700円/回(教室利用券あり) 小学生 700円/回(教室利用券あり)

また、自主事業として活動している多彩な教室のほかに、他の団体に指導者が赴いて指導を行う「業務受託事業」を行っているのも本クラブの特徴の一つです。主な業務受託先は以下のとおりです。

【檀原健康スポーツクラブ 業務受託 令和7(2025)年度実績】

檀原公苑スポーツ教室、楽スポあすか、王寺やわらぎトラスト、吉野スポーツクラブ、桜井北ふれあいセンター、県立医科大、檀原市スポーツ推進課、ともにサロン

2 「健康寿命の延伸」をめざす多彩なプログラム

指導者育成から始まった介護予防の取り組み

本クラブは、活動開始の核となった奈良県立檀原公苑主催の「健康トレーニング教室」を原点としており、設立当初から「介護予防・健康増進に特化したスポーツクラブづくり」をミッションに掲げて歩んできました。独自のプログラムを展開してきたため、まずは指導者を養成するところからスタートし、その指導者たちが現在もクラブを支える原動力として活躍しています。

今回のテーマである「介護予防・健康増進」を体現するため、以下の教室を自主運営しています。



健康卓球教室:参加者同士のコミュニケーションのなかで卓球スキルの上達をめざして、有酸素運動としての卓球を楽しんでもらうような教室です。硬式、ラージボール卓球のほかにストレッチングの指導も行っています。



ハワイアンフラ教室:ヒーリング効果のあるハワイアンの曲に合わせてゆったりと踊るなかで心身ともに解放していくような教室です。



小学生フィットネス教室:年中児～小学生が学年を超えた仲間と関わりながら基礎体力を楽しく養っていくような教室です。



健康太極拳教室:心、息、動(体)を調え、呼吸に合わせて鶴が舞うような気持ちで動きます。練功18法、楊名時太極拳を基礎から細かく行う教室です。フットケアの指導も行っています。





ノルディックウォーキング教室:ノルディックウォーキングは2本のポールを使い、姿勢よく楽に全身運動ができるということで、腰や下肢に不安のある方にも参加していただける教室です。写真は7月に世界遺産登録された藤原京跡を(天の)香具山に向かって歩いているところです。環境に恵まれた本クラブの特徴であり強みの一つです。



外ヨガ教室:午前中に行っている外ヨガ教室。人工芝の屋根付き運動場は直射日光を避け、畝傍山の麓の空気を満喫できる最高の環境下です。心身を解放し、自身の身体と向き合うハタヨガを行っています。



夜のヨガ教室:仕事終わりに参加可能な夜のヨガ教室では、顔ヨガも取り入れています。



健康トレーニングシニア教室:椅座位でフィットネスボールを使用したストレッチ・筋トレを行ったあと、立位での簡単エアロビクス、最後にヨガマットでの臥位ストレッチで整えます。健康寿命延伸のためのエクササイズをストレッチルームと会議室で同時展開しています。



健康トレーニング教室:月・木・金の週3回体育館を使用し、健康保持増進のためのフィットネス教室として実施しています。音楽をバックに、集団で楽しく、自然に身体が動くといった環境づくりを意識し、ウォーキング・ダンス・ステップ台エクササイズなどの有酸素運動、チューブ・タオル・バーを使用したストレッチングおよび筋トレ、手具を使用しないストレッチ&レジスタンス、腰ふり体幹エクササイズなど組み合わせて行い、最後はヨガマットでの臥位ストレッチで整えます。



介護施設デイサービスでの指導:毎月1回介護施設で椅座位体操(ストレッチ・筋トレ・ダンスなど)45分、笑いヨガ15分計60分の出前指導を行っています。

3

専門機関と連携！ 会員の生の声に支えられ実感する確かな効果

行政や大学との協働で広がる健康づくりの輪

クラブ運営においては、拠点施設が県立であるため指定管理の業務受託がかなわず、toto助成終了後には財源確保に困窮した時期もありました。しかし、平成26(2014)年から9年間にわたり「奈良県健康ステーション」の業務を行政から受託できたことで、健康づくりにおける運動の重要性を再認識し、自主事業を推進し続けることができました。

さらに、近隣の奈良県立医科大学(疫学・予防医学講座)が行う「平城京スタディ睡眠リズム健診」における体力測定(握力・歩行速度・下肢筋力)業務を担当したことで、大学研究室とのつながりも構築され、広い視野で活動を展開しています。

専門機関の活用と会員の声による効果検証

設立初期(平成18年～22年)は、大学教授の指導のもとクラブ内で体力測定を実施し、会員のカルテを作成していました。その後、さまざまな測定手段が身近になったことを受け、会員には県健康ステーションでの測定や、睡眠リズム健診の受診を案内する形へとシフトしました。これにより、会員個人が専門機関からの確かなアドバイスを得る方法へ切り替えることが可能になりました。

個人情報管理の難しさもあり、現在クラブとして詳細な身体健康度データを把握しているわけではありません。しかし、アンケート調査等による効果検証を実施しており、会員の皆さまの生の声に支えられ、日々の事業の効果を実感しながら活動を進めることができます。

実際に令和5(2023)年に実施した会員アンケート(回収数130部)では、97%の会員が「健康や体力づくり」のために入会し、現状に対して85%以上が満足、やや満足と回答しています。また、61%が5年以上の継続者であり、38%は10年以上の継続者であることから、健康効果を実感してもらっているものと判断しています。また、「運動が好き」「フラを楽しみたい」といった運動目的の声に加え、「(当初の希望以外にも)参加者との出会いもありよかった」といった声も寄せられています。健康維持はもちろんのこと、クラブを通じた会員同士の交流が、参加者の大きな満足度につながっていることが確認できました。

4

施設の老朽化や雇用の壁を超え、 持続可能なクラブ経営の実現へ

今後の大きな課題として、現在使用中の体育館が老朽化により使用できなくなる見込みであることが挙げられます。そのため、他の団体との連携を模索しつつ、新たな環境での取り組みにチャレンジしていきたいと考えています。

また、社会のニーズに対応できるクラブとして成長していくためには、指導者およびスタッフ人材が不可欠です。しかし、給与面に加えて社会保険料(健康保険・厚生年金・介護保険・雇用保険など)の負担が非常に重く、思うように雇用ができない現実があります。

現在は、ご支援いただいている企業からの出向による常勤職員2名と、クラブ所属の非常勤の指導者およびスタッフの皆さまの尽力によって何とかクラブ運営が成立している状況です。今後も、地域に必要とされるクラブであり続けるため、持続可能な運営を見据えた経営のあり方を日々模索しているところです。

橿原健康スポーツクラブKKSC クラブマネージャー 前川妙子

クラブプロフィール

- 設立年月日** 平成20(2008)年3月1日(平成24年11月21日 法人登記)
- 所在地** 奈良県橿原市五条野町2252番地
- 運営** 会員数:306名(令和8年3月現在)、予算規模1,400万円(令和8年度)
- 特徴** 「健康な生活は自分自身で楽しみながら創っていこう」を合言葉に
皆さまと健康づくりを楽しむ総合型地域スポーツクラブ
- 連絡先** 〒634-0043奈良県橿原市五条野町2252番地
TEL:080-7485-0512、090-5675-3321
FAX:0744-28-6720
HP:<http://kashiharakenkoh.com>
E-mail: kashiharakenkoh@gmail.com



特別企画

★都道府県スポーツ協会または都道府県連絡協議会で実施している
総合型クラブ支援に関する取り組み★

公益財団法人

岩手県スポーツ協会・岩手県総合型 地域スポーツクラブ連絡協議会 岩手県

総合型地域スポーツクラブが地域に根ざした活動を継続・発展させていくためには、クラブ同士が情報や課題を共有し、互いに支え合いながら活動の充実を図ることが重要です。また、都道府県単位でクラブを支援する総合型地域スポーツクラブ連絡協議会やスポーツ協会が、クラブのニーズに応じた研修会や情報提供、交流の機会などを設けることで、各クラブの活動を後押しすることにもつながります。

そこで今回は、各都道府県のスポーツ協会や総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が実施している、総合型地域スポーツクラブの活動を支援するさまざまな取り組みを紹介します。

1

県内のスポーツ活動を支え、 クラブ同士の連携を促進

公益財団法人岩手県スポーツ協会は、岩手県における県民スポーツの統一組織として、県内のスポーツ関係団体等と連携しながら、スポーツの健全な普及・発達を推進する組織です。競技スポーツから地域スポーツ、青少年スポーツまで幅広い分野を対象として、県民がスポーツに親しみ、継続して活動できる環境づくりに取り組んでいます。

その役割として、国民スポーツ大会および各種スポーツ大会に関する事業、選手の競技力向上に関する事業、スポーツ医・科学による選手のサポート、スポーツ少年団の育成、スポーツ指導者の育成、地域スポーツクラブの育成・支援、スポーツ関係功労者等の表彰、スポーツの普及・啓発のための広報活動などを実施しています。これらの事業を通じて、競技力の向上だけでなく、県民一人ひとりがスポーツに親しむことのできる生涯スポーツ環境の充実を図っています。

地域スポーツクラブの育成支援では、特に総合型地域スポーツクラブの育成・活性化に重点的に取り組んでいます。

なお、岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会を本協会内に設置し、事務局を担っています。令和8(2026)年度は、岩手県内の25クラブが登録しており、これらの登録クラブと学識経験者により協議会を構成しています。各クラブの相互交流や情報共有を促進するとともに、県内の総合型地域スポーツクラブのさらなる発展を支援しています。

2 クラブのニーズに応える多角的な支援を展開

以下が、県スポーツ協会の主な取り組みです。

- 県内54の総合型地域スポーツクラブおよび33市町村行政(生涯スポーツ担当部局)への訪問・ヒアリングの実施
- 総合型地域スポーツクラブ運営研修会(年2回)の実施
- 生涯スポーツ指導者等講習会の実施
- 県スポーツ振興課との情報共有
- 子どものスポーツ機会創出事業
- 市町村行政担当者、関係機関・団体担当者等の要請に応じた相談活動や勉強会の実施
- JSPOや県の各種研修会等の情報発信・総合型地域スポーツクラブへの周知連絡
- 地域スポーツ推進団体連絡会議(年3回)の実施
- 地域スポーツクラブ地域課題解決促進事業
(総合型地域スポーツクラブによる教室・体験会の開催)
- 県外の総合型地域スポーツクラブの先進地視察
- 総合型地域スポーツクラブと大学の連携
- 登録・認証制度における申請書類の確認および登録審査委員会の実施
- 岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会の実施

3 大学との連携で、次世代人材の発掘・育成へ

県内の総合型地域スポーツクラブは、創設から20年ほど経過したクラブが多く、運営を担ってきた人材の高齢化や、次世代を担う人材の確保・育成が課題となっています。また、SNSやホームページなどを活用した情報発信や、地域のさまざまな組織・団体との連携が十分に進んでいないクラブもあります。

こうした課題を踏まえ、総合型地域スポーツクラブと大学が連携し、次世代人材の発掘・育成やクラブ運営の効率化を図るため、3つの取り組みを実施しました。

1. 大学生を対象とした勉強会

スポーツを専門的に学ぶ大学生(花巻市にある富士大学)を対象に、地域スポーツへの関心を高め、総合型地域スポーツクラブの理解を深めてもらうための勉強会を開催し、35名が参加。「地域×スポーツでつくる未来～大学生が知っておきたい地域スポーツへの関わり方～」をテーマとして実施しました。

第1部では、クラブアドバイザーが競技スポーツと生涯スポーツの違いや、総合型地域スポーツクラブの役割について説明しました。第2部では、インボルブ花巻の代表・泉山将馬氏から、クラブ運営の実践事例や、スポーツを仕事として地域に関わる方法について紹介していただきました。

学生からは、子どもたちとの関わり方や指導者としての活動、実際の仕事内容などについて多くの質問が寄せられ、地域スポーツへの高い関心がうかがえ、将来的な人材確保やクラブとの連携につながるきっかけをつくることができました。



大学生を対象にした総合型クラブ勉強会。泉山将馬氏(インボルブ花巻)による事例発表



熱心に耳を傾ける、未来の地域スポーツを担う学生たち

2. 大学生のイベント運営への参加

勉強会の講師を務めていただいたインボルブ花巻の親子向け運動イベントに、勉強会に参加した学生が運営補助として参加しました。

学生は受付や駐車場係、会場誘導などの運営業務に加え、子どもたちと一緒に運動したり、動きをサポートする指導補助も担当しました。

開始当初は子どもたちへの声かけに戸惑う姿も見られましたが、徐々に積極的に関わるようになり、子どもたちとの交流を楽しむ様子が見られました。学生からも、「子どもたちや地域に関わることができる仕事は魅力的に感じた」といった感想が寄せられました。

実際の現場を体験することで、総合型地域スポーツクラブの活動や仕事への理解を深め、地域スポーツに関わる魅力を実感する機会となりました。



総合型クラブ主催イベントへの大学生の運営補助参加



大学生とともに笑顔の子どもたち



大学生も実際の現場を体験し、地域スポーツに関わる魅力を実感



体をいっぱい使って、お手本を見せる大学生

3. 大学生によるホームページ編集支援

デジタルツールの活用にも慣れたクラブを支援するため、担当講師の呼びかけで募集した岩手大学においてスポーツを専攻・履修している学生を派遣し、ホームページの更新・編集を支援しました。対象は盛岡市のコミスポクラブ東厨川で、近隣の岩手大学の学生が対応しました。

計3回、1回2時間程度の支援を行い、写真の変更や行事予定の掲載、ホームページ全体の見せ方の改善などに取り組みました。また、学生が作業を代行するだけでなく、クラブスタッフ自身が継続して編集できるよう、実際の作業を通じて編集方法を学んでもらいました。

その結果、クラブスタッフ自身によるホームページの更新が可能となり、情報発信の再開と業務の効率化につながりました。さらに、今後も相談できるよう連絡先を交換し、学生には一時的に事務局スタッフとして協力してもらうなど、継続的な関係も構築されました。

今回の取り組みを通じて、大学生の知識やスキルを地域の総合型地域スポーツクラブで活用するとともに、学生にとっても自身のスキルを地域で生かす実践の場をつくることができ、大学とクラブが互いの資源を活用した人材連携のモデル構築につながる取り組みとなりました。

4 現場体験を通じて深まった地域スポーツへの理解

今回の取り組みを通じて、大学生が総合型地域スポーツクラブの役割や活動を知るだけでなく、実際のクラブ運営や事業に参加することで、地域スポーツへの理解や関心を深める機会を創出することができました。特に、勉強会から実際のイベント参加へと段階的に関わる機会を設けたことで、学生が地域スポーツの現場を体験し、スポーツを通じて地域や子どもたちと関わることの魅力を実感することにつながりました。

また、ホームページ編集支援では、大学生が持つデジタルスキルを活用することで、クラブの情報発信に関する課題の解決や業務の効率化を図ることができました。さらに、クラブ側が編集方法を習得することで、クラブが継続的に情報発信できる環境を整えることにもつながりました。これらの取り組みにより、大学生の知識やスキルを地域スポーツの現場で活用する新たな人材連携の可能性を示すことができました。

継続的な連携を支える仕組みづくりが課題

一方で、今回生まれた学生とクラブとのつながりを一過性のものとせず、継続的な関係へと発展させていくことが今後の課題です。また、大学とクラブの双方が継続的に連携するためには、クラブ側が抱える課題を明確にするとともに、学生が持つ知識・スキルとのマッチングを行うコーディネート機能の充実が必要だと思います。

今後は、大学生のインターンシップやアルバイトとして、クラブ運営・広報等への継続的な参画など、学生が総合型クラブに関わる機会をさらに広げるとともに、大学と総合型地域スポーツクラブをつなぐ仕組みを構築していくことが重要です。今回の取り組みをモデルケースとして、他大学・他クラブへの展開を図り、次世代を担う人材の発掘・確保と、総合型地域スポーツクラブの運営基盤の強化につながることを期待しています。

5 多様な主体との連携でクラブの運営基盤を強化

県スポーツ協会では、総合型地域スポーツクラブが地域のスポーツ振興を支える担い手として、持続的に活動できる環境を整えることを目標とします。各クラブが抱える人材確保や経営基盤、情報発信等の課題への支援を充実させるとともに、大学や企業、行政、関係団体等との連携を促進し、クラブの運営体制の強化を図りたいと思います。

また、総合型地域スポーツクラブが地域の子どものスポーツ活動や地域スポーツクラブ活動の担い手となり得ることを広く発信し、行政をはじめとする各関係機関の理解を深め、地域の実情に応じた連携や支援につなげていきます。

【予定している取り組み】

「法人格取得のための勉強会」を予定しています。総合型地域スポーツクラブおよび各競技別協会を対象に、スポーツ団体が持続的・安定的に活動を継続し、地域におけるスポーツ振興の担い手として発展していくため、法人化についての理解を深めます。

連絡協議会の役割を見直し、クラブ間の連携を促進

県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会としては、25クラブの代表が総会および総合型クラブ運営研修会に参加しています。一方で、活動はこれらに限定されており、加盟クラブ間の継続的な情報交換や連携、課題解決に向けた取り組みは十分に行われていない現状にあります。今後は、協議会としての役割や活動内容を見直し、クラブ間の連携強化につなげていく必要があります。また、県内総合型クラブが「部活動地域展開を含めた地域スポーツ活動の担い手である」という共通認識を形成することも課題です。

公益財団法人岩手県スポーツ協会 クラブアドバイザー 岩井恵理

公益財団法人岩手県スポーツ協会

所在地 〒020-0133 岩手県盛岡市青山4丁目13-30 岩手県スポーツ協会会館内
連絡先 TEL:019-648-0400 FAX:019-648-1600
HP:<https://www.iwate-sports.or.jp/>
<https://www.kouiki-sports.iwate.jp/> (岩手県広域スポーツセンターHP)
E-mail: sc@iwate-sports.or.jp

岩手県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会

所在地 〒020-0133 岩手県盛岡市青山4丁目13-30 (公財)岩手県スポーツ協会内
連絡先 TEL:019-648-0400 FAX:019-648-1600
HP:
E-mail: sc@iwate-sports.or.jp

連載

★学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブ★

NPO法人かわまたスポーツクラブ 福島県伊達郡川俣町

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和8(2026)年度から令和10(2028)年度までを「改革実行期間(前期)」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型地域スポーツクラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動の地域展開に取り組むクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブの理念と特徴

自然豊かな絹のまちでの活動

福島県伊達郡の川俣町は、県都・福島市から車で約30分、里山に囲まれた人口約1万人の小さな町です。面積は約128平方kmで、自然が身近にある落ち着いた環境が特徴です。古くから絹織物の産地として発展し、今も川俣シルクや地鶏の川俣シャモなど、全国に誇れる特産品があります。東日本大震災と原発事故の影響を受けながらも、復興と少子高齢化への対応に取り組み、地域資源を生かした新しいまちづくりを進めています。

スポーツを通じたコミュニティづくり

かわまたスポーツクラブ(以下、当クラブ)の概要を紹介します。

当クラブは、平成21(2009)年に設立、平成27(2015)年に法人格を取得した総合型地域スポーツクラブで、町内を活動エリアとし、子どもから大人まで幅広い世代が参加しています。

クラブの理念は「ひとり、いちスポーツを合言葉に、いつでも、どこでも、だれとでも参加できるスポーツ環境を構築し、スポーツ活動を通して地域のコミュニティづくりを目指すものである」としています。種目としては、ヨガ、ボッチャ、グラウンドゴルフなど複数のスポーツ・運動プログラムを展開し、年間を通じて継続的な活動を行っています。令和7(2025)年度は、町委託事業15件、事業開催数194回、累計参加人数1,600人となりました。

クラブの運営は、理事会・事務局を中心としながら、指導者、保護者、地域住民、学校関係者など、多様なメンバーで支えられています。財源は、会費収入に加えて、行政からの委託料・各種事業収入などを確保している状況です。

こうしたなかで、当クラブは、早い段階から学校との連携や地域の子どものスポーツ環境づくりに取り組んできました。その蓄積が、現在進んでいる部活動の地域移行においても、大きな土台となっています。また、令和8(2026)年4月制定の川俣町過疎地域持続的発展計画に「スポーツの振興」で示されている通り、地域スポーツの中核的な組織でもあります。

2

部活動地域展開への挑戦

地域展開を取り巻く背景と課題

総合型地域スポーツクラブと部活動の地域展開を取り巻く背景について、簡単に整理します。これまで、子どもたちがスポーツに継続的に関わる場として、学校の運動部活動が大きな役割を担ってきました。しかし、少子化の進行や教員の働き方改革、平日・休日の長時間指導といった課題が顕在化し、『学校だけで支える』仕組みには限界があることがはっきりしてきました。

川俣町では、部活動の地域展開に伴い、以下の課題・問題について取り組みました。

- ①深刻な少子化に伴う部活動の持続性に課題
- ②教員の業務負担の増加(競技経験のない競技指導者、休日の引率等)
- ③生徒の価値観の多様性に応じた活動の必要性

これらの課題を解決するべき川俣町の方針として、「令和5(2023)年度から一部の休日運動部活動を地域へ移行」「文化部および移行できない部活動については移行準備が整い次第移行」「将来的に生徒のニーズに合った活動機会の確保」を掲げました。

委託事業としての橋渡し役

川俣町中学校部活動の地域展開に伴う担い手として、川俣町教育委員会からの委託契約に基づいて当クラブが運営しております。学校が直接運営はせず、地域クラブの場を活用して生徒が活動できるよう、橋渡し役を担っています。

生徒と保護者に対して、活動内容や日程の情報提供、会員登録の受け付け、指導者からの連絡調整などを行います。生徒はクラブの会員として活動に参加し、保護者は連絡を受け取りつつ、必要に応じてクラブとやり取りをします。当クラブが取り扱う主な活動は以下の8項目になります。

- ①指導者の確保、②参加者募集、③スポーツ安全保険加入、④従事者時間管理、⑤業務報告書の作成、⑥報酬の支払、⑦安全管理、⑧地域クラブ活動指導者調整。このうち、①～⑦の活動は当クラブで直接行い、⑧に関しては各団体にお任せしております。



地域クラブ活動フェンシング競技。スポーツ少年団と合同練習風景



地域クラブ活動陸上競技の練習風景



地域クラブ活動野球競技の練習試合風景

指導者の確保と行政との連携

指導者の確保について、地域のスポーツ団体関係者や川俣町スポーツ推進委員を対象に指導者協力依頼を実施しており、指導者をどう集めていくかという点が課題となっています。指導者が集まりにくい要因としては、資格取得や安全確保、保護者対応、連絡業務など「目に見えない負担」が多いことや、活動の実態が見えにくいことが挙げられます。

そこで当クラブでは、これらの課題への対応策として、業務の役割を分担して指導者の負担軽減を図るとともに、謝金の考え方を明確にしています。また、外部の資格取得にはこだわらず、当クラブが主催する研修会の受講を指導の必須条件とすることで参加のハードルを下げています。そのうえで、競技別の指導者懇談会を実施し、地域の子どもの現状やクラブがめざす方向を共有しながら、「自分にできる関わり方は何か」を一緒に考えていただく場としています。単にお願いするだけでなく、地域クラブ活動が子どもの成長と地域づくりを支える取り組みであるという「活動の意義」を丁寧に伝え、地域全体で子どもを支える意識を持ってもらうことを大切にしています。

ここで、学校や行政とどのように連携してきたのか、ポイントを二つ紹介します。

一つ目は、クラブ事業と部活動との接続です。例えば〇〇競技では、平日は学校の部活動、休日は当クラブ主催の地域クラブとして活動し、指導者や練習場所を共有する仕組みを試行してきました。これにより、指導の継続性を保ちながら、学校外の多様な仲間と関わる機会も得られています。

二つ目は、行政との役割分担の明確化です。クラブ単独では対応が難しい指導者の謝金や保険、施設使用料などについては教育委員会と協議を重ね、財政的な支援の枠組みを整えてきました。しかし、行政への見積書提出にあたっては前例がないため、継続的な財源確保や費用分担の調整、保護者負担への配慮、活動の質を保つことなどについて、説明責任を果たしながら理解を得ることに多くの時間と労力を要しました。

当クラブはそのうえで、事業の企画運営や現場のコーディネートなど、民間ならではの機動力を発揮するよう心がけています。



指導者に対して、当クラブが主催する指導者研修会の受講を生徒を指導するための必須条件としています



コーディネーショントレーニングによる生徒・指導者・合同研修会風景

3

地域に広がる協働の効果

多様な世代の参加と交流

行政と連携したことで、子どもから高齢者まで一貫したスポーツ・健康づくりの機会が広がり、参加者同士のつながりも深まりました。また、行政の支援を活用することでクラブの運営が安定し、新しい事業にも挑戦しやすくなりました。

こうした取り組みを通して、いくつかの成果が見えてきました。

第一に、クラブ会員の増加や種目の多様化が進み、子どもから高齢者まで参加しやすい環境が整ってきました。第二に、学校現場との連携を通じて子どもたちのスポーツ機会が広がり、教員の負担軽減にも一定の貢献が見られました。第三に、行政や地域団体との協働が進んだことで、スポーツをきっかけとした住民同士のつながりが強まり、地域コミュニティづくりへの手応えが生まれてきました。

地域を結ぶプラットフォームへ

これらの成果は、クラブの地盤が少しずつ固まり、地域にとって欠かせない存在として認識され始めたことを示していると考えています。町や教育委員会と連携し、学校施設の開放や部活動の地域展開を進めることで、当クラブが単なるスポーツの場ではなく、学校・行政・地域を結ぶプラットフォームとして機能することをめざしています。

解決すべき課題も少なくありません。具体的には、中学校部活動の地域展開の受け皿づくりといった学校との連携課題をはじめ、学校・保護者・地域団体・行政をつなぐ連絡機能を強化する地域貢献課題、そして指導者や運営人材を育成する人材確保課題などが挙げられます。

だからこそ、それぞれが単独で頑張るのではなく、お互いの強みと弱みを補い合う「協働の仕組み」をつくっていくことが重要と考えます。部活動の地域展開が本格的に進む今こそ、総合型地域スポーツクラブを地域の共通資源として位置づけ、地域ぐるみで子どもの成長と健康を支える体制に挑戦していきたいと考えます。

当クラブの実践はまだ途上にありますが、地域の教育や福祉、まちづくりとつながる中核的な存在になりうると確信しています。



年1回実施する救命講習会の風景

4

持続可能なクラブ運営をめざして

日常的なスポーツ環境の提供

当クラブは、町や学校、関係団体との協働のもと、子どもたちがこれまでの部活動に近い環境でスポーツを続けられるよう、地域クラブとして種目別の教室やチームを運営してきました。単に練習の場を提供するだけでなく、活動時間や負担の見直し、保護者や地域の方々の参画を促しながら、無理のない「する」「ささえる」の仕組みづくりを進めています。

また、子どもだけでなく、大人や高齢者も一緒にスポーツを楽しみ、支えることで、世代を超えたつながりが生まれ、地域全体のコミュニティづくりにもつながってきました。こうした日常的な活動の延長線上に部活動の地域展開を位置づけていることが、私たちのクラブの大きな特徴です。

今後の課題とリスク管理

今後は、認証制度の趣旨を踏まえながら、学校との連携協定の整理や指導者の確保・育成、財源の安定化など、地域として乗り越えるべき課題にも町や関係機関とともに取り組んでいきたいと考えています。

一方で、行政の年度や制度に合わせた事業運営になりがちで、クラブ本来の自主性とのバランスが常に問われます。担当者の異動などに左右されない継続的なパートナーシップの仕組みづくりや、世代や地域による参加の偏り、地域展開に伴う責任やリスクの受け止め方など、まだまだ検討すべき点が多くあります。クラブの理念を住民に丁寧に伝えていく広報も大きな課題です。

安定した運営のために、会費に加え多様な財源を組み合わせることで基盤を確保することは重要ですが、サービス提供に伴う収入は消費税等の課税対象となり、適切な区分経理と納税義務を負う可能性があります。

また、財政基盤の強化は、事務処理に費やす時間の増加や運営上のリスクも伴います。単に収入を増やすことのみを目的とするのではなく、税務・会計・保険・コンプライアンスを含めたリスクマネジメントの視点から、無理のない事業規模や運営方法を検討し、持続可能なクラブ運営を図ることが重要と考えています。

これまでの実践を土台にしながら、「スポーツの力で元気なまちづくり」を実現する地域のプラットフォームとなれるよう、地盤強化の取り組みを続けていきたいと思っています。

NPO法人かわまたスポーツクラブ 事務局長 氏家美代子

クラブプロフィール

設立年月日 平成21(2009)年4月1日(平成27年3月31日 法人登記)

所在地 福島県伊達郡川俣町大字東福沢字万所内山2-3

運営 会員数:201名(令和8年4月現在)、予算規模32,000,000円(令和8年度)

特徴 地域の人々が主体となって、子どもから大人まで幅広く参加できるクラブです。毎月の会報誌を川俣町全戸に配布実施し、教室・イベントを案内することで、地域住民が「いつでも」「どこでも」「だれでも」参加できるよう活動をしています。また、学校部活動地域展開を支える運営団体として認証され、地域ぐるみで支える「部活動の地域展開タイプ」認証クラブの先行事例として位置づけされています。

連絡先 〒960-1405福島県伊達郡川俣町大字東福沢字万所内山2-3
TEL:080-6056-1777 FAX:024-565-3932
E-mail:info@kawamata-sport.com

助成金情報

YMFSスポーツチャレンジ助成2027年度(第21期生)

[実施団体] (公財) ヤマハ発動機スポーツ振興財団

スポーツに関連する幅広い分野で世界の舞台へ大きくはばたく情熱的なチャレンジを応援。
グローバルに活躍することをめざし、高い目標を掲げて取り組んでいるアスリートや指導者、
研究者の活動(体験分野、研究分野)を支援・助成します。

[申込期間]

2026年8月24日(月)～10月30日(金)正午にて入力締切。

申請フォームにて、「電子申請」を行います。

詳しくは以下のページでご確認ください。

<https://www.ymfs.jp/support/>

お知らせ

次世代経営人材向けワークショップ①の開催

本ワークショップでは現在総合型クラブに所属する次世代経営人材を対象に、所属クラブのクラブマネジメントや、総合型クラブ全体を通じた「人材の確保・育成」の課題、今後の自身のクラブへの関わり方について考える機会を設けることで、総合型クラブの次世代経営人材が、今後総合型クラブが持続可能な運営を行ううえで必要な知識を身につけ、現場での活動に反映するためのきっかけとすることを目的とし実施いたします。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております！

なお、本ワークショップにご参加いただくとクラブマネジャー資格を含めたJSPO公認指導者資格の対象となります(一部の競技・資格を除く | 詳細は開催要項をご覧ください)。

▼詳細はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid1073.html>

▼申し込みはこちら

<https://forms.cloud.microsoft/r/Duxw0HJ2w2>

セミナー詳細

- 日時 令和8(2026)年10月14日(水)
- 主催 公益財団法人日本スポーツ協会総合型地域スポーツクラブ全国協議会
- 開催形式 オンライン配信(Zoom配信)
- 参加対象 令和8年度SC全国協議会登録クラブ関係者
※今後クラブの運営の核として運営に携わる予定の次世代経営人材
JSPO公認マネジメント資格保有者
- 申込期限 令和8(2026)年10月6日(火)まで
- 参加費 無料
- 定員 1,000名

<本件に関する問合せ先>

【研修会の内容について】

公益財団法人日本スポーツ協会 地域スポーツ推進部 クラブ育成課

TEL:03-6910-5815 Mail: sc-net@japan-sports.or.jp

ブロック別クラブネットワークアクション2026を開催します！

総合型地域スポーツクラブの運営に必要な情報や課題解決に向けた具体的な取り組み等についての情報共有を目的に、全国9ブロックにて『ブロック別クラブネットワークアクション2026』を実施いたします。

今年度の共通プログラムは「総合型地域スポーツクラブの原点に立ち返る」をテーマに講演を行います。総合型クラブ育成の意義や歴史を振り返りながら、現在の地域における総合型クラブの立ち位置や価値を探ります。独自プログラムでは各ブロックの特色に富んだ内容となっておりますので楽しみに！

各ブロックの概要やプログラム内容については、下記の当協会ホームページや今後のSNS投稿からご確認ください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

■日程・会場

ブロック	日程	開催 都道府県	会場
北海道	10月24日(土)～25日(日)	北海道	北海道立総合体育センター 北海きたえーる
東北	11月14日(土)～15日(日)	宮城県	東北学院大学 土樋キャンパス
関東	11月21日(土)	東京都	日本青年館ホテル
北信越	11月19日(木)～20日(金)	富山県	富山県農協会館
東海	11月21日(土)	三重県	ブラザ洞津
近畿	11月28日(土)	奈良県	奈良商工会議所
中国	10月31日(土)～11月1日(日)	広島県	合人社ウェンディ ひと・まちプラザ
四国	11月29日(日)	徳島県	アスティとくしま
九州	12月5日(土)	熊本県	熊本市民会館シアーズホーム夢ホール

■参加料

SC全国ネットワーク登録クラブ関係者、日本スポーツ少年団登録者：1名につき2,200円(税込)
上記以外の方：1名につき4,400円(税込)

▼2026年開催概要

<https://www.japan-sports.or.jp/local/tabid508.html>

第80回国民スポーツ大会(青の煌めきあおもり国スポ)の開催

令和8(2026)年9月・10月に青森県で第80回国民スポーツ大会(青の煌めきあおもり国スポ)を開催します。

■開催日程

本会期: 令和8(2026)年10月10日(土)～10月20日(火)

※上記期間の他、会期前にも競技を実施します

▼第80回国民スポーツ大会本大会(青の煌めきあおもり国スポ)大会情報はこちら

[国スポ - 青の煌\(きら\)めきあおもり国スポ・障スポ- 第80回国民スポーツ大会・第25回全国障害者スポーツ大会](#)

■国スポチャンネルにおけるライブ・アーカイブ配信

本大会ではすべての正式種目の決勝戦を中心に、ライブ・アーカイブ配信を行う予定です(一部競技は予選も配信)。ふだん観戦機会がない競技を観戦いただける機会にもなります。ぜひご覧ください。

▼国スポチャンネルサイトはこちら

[国スポチャンネル - ライブ配信・アーカイブ配信](#)

青の煌めきあおもり国スポ
JAPAN GAMES 2026 翔けろ未来へ縄文の風に乗って
第80回国民スポーツ大会
本会期: 10/10~20
会期前 I: 9/3~13
会期前 II: 10/2~9
国スポチャンネルで全37競技を配信!

■大会記念品の販売

第80回国民スポーツ大会本大会(青の煌めきあおもり国スポ)の大会記念品を、大会協賛社であるミズノ株式会社の公式オンラインショップ(ミズノ公式オンライン)にて販売しております。大会の記念にぜひ買い求めください。

●在庫には限りがございます。ぜひお早めにオンラインショップをチェックしてお買い求めください。

●ソフトテニス競技会場、陸上競技会場のみ現地販売の予定がございますが、数量に限りがございます。

▼販売サイトはこちら

[青の煌めきあおもり国スポ 大会記念品\(ミズノ公式オンライン\)](#)

日本スポーツマスターズ2026石川大会 (JAPAN GAMES MASTERS2026石川大会)の開催



令和8(2026)年9月に石川県で日本スポーツマスターズ大会を開催しました。

■開催日程

本会期: 令和8(2026)年9月18日(金)～22日(火・休)

※上記期間の他、会期前後にも競技を実施します

▼日本スポーツマスターズ2026石川大会の大会情報はこちら

[日本スポーツマスターズ2026石川大会](#)

■大会記念品の販売

日本スポーツマスターズ2026石川大会の大会記念品を、大会協賛社であるミズノ株式会社の公式オンラインショップ(ミズノ公式オンライン)にて販売しております。大会の記念にぜひ買い求めください。

●在庫には限りがございます。ぜひお早めにオンラインショップをチェックしてお買い求めください。

●オンラインショップのみでの販売となり、会場での販売はございません。

▼販売ページはこちら

[日本スポーツマスターズ2026石川大会記念品\(ミズノ公式オンライン\)](#)

「令和8年度第1回女性スポーツサポート研修会」開催のお知らせ (9月28日申し込み開始)

★ 男性指導者にもおすすめ！

★ 誰もが参加しやすいクラブづくりのヒントに！

令和8年度第1回女性スポーツサポート研修会のご案内です。本年度はオンラインで全3回開催いたします。第1回(Zoomウェビナー)は「思春期女性(小学校高学年～高校生年代)・基礎編」として、女性スポーツに関する医学、栄養、ハラスメントの対応について幅広く学んでいきます！ぜひ奮ってご参加ください。

研修を通じて向上が期待される能力

- 女性の身体的特徴を踏まえ、安全・安心なスポーツ指導を実践できる
- 年代、ライフステージおよび志向の変化に応じたスポーツ参加の動機・目的を把握できる
- 女性一人ひとりの状況やニーズに応じて、適切な指導・働きかけを実践できる

資格更新研修について

- 本研修会は、JSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修対象です(一部の競技・資格は対象外となります)。

▼研修会詳細(講演者・内容・注意事項等)はこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid1221.html>

▼「女性スポーツ促進に向けたスポーツ指導者」ハンドブックはこちら

<https://www.japan-sports.or.jp/women/tabid1336.html>

■第1回(Zoomウェビナー)日時(18:30入室開始)

1コマ目:令和8(2026)年10月29日(木) 19:00~20:45

2コマ目:令和8(2026)年11月12日(木) 19:00~20:45

参加料:5,500円(税込)※1コマ目・2コマ目あわせての料金となります

定員:500名(先着順)

申し込み受付期間:令和8(2026)年9月28日(月)~10月19日(月)

申し込み方法:

【JSPO 公認スポーツ指導者の方】

▼指導者マイページ

https://account.japan-sports.or.jp/sign_in

<備考>

本研修会の参加により、JSPO公認スポーツ指導者資格の更新研修を修了したことになります。(一部の競技・資格を除く)

詳細は当協会ホームページ(<https://www.japan-sports.or.jp/coach/tabid233.html>)をご確認ください。

※2コマで1回分の実績となります。1コマ目・2コマ目どちらか欠席した場合は実績となりませんのでご注意ください。

【JFAサッカーB・Cライセンス、フットサルB・Cライセンス指導者の方】

JFAのKICKOFFからお申し込みください。

講習会番号:000R10005625

【JBA公認コーチ(S・A・B・C・D・E級)の方】

URL:<https://team-jba.jp/workshop/28481/detail>

【資格をお持ちでない方】

URL:<https://forms.cloud.microsoft/r/XJVUP3DkMa>

<本件に関する問合せ先>

【研修会の内容について】

公益財団法人日本スポーツ協会 スポーツプロモーション部 プロモーション課

TEL:03-6910-5810 Mail: woman@japan-sports.or.jp

【日本スポーツ協会指導者資格の更新について】

公益財団法人日本スポーツ協会(JSPO) スポーツ指導者育成部

※指導者マイページメニュー内の「Q&A・お問い合わせ」内のフォームからお問い合わせください。